

生物多様性保全

当社グループは、生物の恵みを得ながら人間社会が存続し続ける「持続可能で自然と共生する社会の実現」は、人類の存続にも影響を与える重要な課題であると考えています。森林や里山などの保全活動や地域緑化活動への参加等を通じて生物多様性保全活動を推進します。

「企業の森づくり活動」への参画

2024年5月に「企業の森づくり活動」の第1回目の活動を実施しました。NPO法人ひょうご森の倶楽部の方々の指導のもと、当社従業員が木々の除伐作業を行いました。

企業の森づくり活動とは、企業や地域、地元自治体とが協同して森林の保全活動に取り組むもので、兵庫県、姫路市ならびに公益社団法人兵庫県緑化推進協会と当社の4者間で2029年5月までを対象期間とした協定を締結しました。当社は、姫路市立藤ノ木山自然公園の森林の一部(1.46ha)を「さんとくん 未来の森」と名付け、本活動に取り組んでいます。

ナラ枯れ^{※1}や照葉樹林化^{※2}がみられる里山林において、光環境を改善して下層植生等の回復・保全を図ってまいります。

※1 カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、コナラ等の樹木が集団的に枯損する病気の名称です。人への感染等は、ありません。

※2 樹木には、紅葉して落葉する「落葉樹」と、冬でも落葉しない「常緑樹」の2種類があります。照葉樹は、常緑樹に含まれ、太陽の光で葉の面がキラキラ光ることから「照葉樹(しょうようじゅ)」と呼ばれています。薪や炭等の生産を行っていた燃料革命前の里山林では、コナラなどの林内が明るい落葉樹が広がっていましたが、人が里山林を利用しなくなった結果、急速に照葉樹化が進んでおり、今日の里山林は、林内が暗く種の多様性に乏しい森林へと移行しつつあります。

※1,※2とも兵庫県ホームページより引用



「さんとくん 未来の森」と命名

除伐作業

地域緑化活動

2023年12月より、一般社団法人 姫路市まちづくり振興機構の活動に賛同し、姫路市と市民ボランティアと協同で姫路駅北の玄関口である「キャッスルガーデン」の植栽管理と清掃活動を行う緑化ボランティア活動に参加しています。



緑化ボランティア活動

OVAKOにおける自然の循環活動

OVAKO(Hofors工場)では、希少な植物種を保護するために、工場内の一部を放牧地として管理しています。そこには牛が放牧されており、草を食み、排泄物が植物の肥料となり、生態系が健全に維持されています。



工場内放牧地の牛

SSMIにおける植樹活動

SSMIでは、毎年6月の世界環境デーに合わせて、環境保護の重要性を啓発し、持続可能な未来を目指す取り組みの一環として植樹活動を行っています。社員が参加し、地域の緑化に貢献しています。



植樹活動にあたり挨拶するDilip社長(右から3人目)